

神経研究の進歩第 8~9 巻総目次

1964 年 (第 1 号~第 4 号) 1965 年 (第 1 号~第 4 号)

内容の詳細は7巻2号以前の号の巻末総目次を参照してください。なお6巻4号までは品切れになっています。

'64年1月 第8巻 第1号 1,200円
末梢神経 (第4回神経病理懇話会)

実験的ビタミン欠乏症における末梢

神経病変……………陳 震 東
実験的アレルギー性神経炎(ENA)

の研究……………松山 春郎・他
急性・悪急性多発性神経炎の病理……………松山 春郎・他
末梢神経の腫瘍の電子顕微鏡的研究……………太 田 邦 夫

第4回神経病理懇話会抄録および討論

【原 著】

糖尿病患者の神経障害に関する研
究……………高 須 俊 明

定位脳手術における頭蓋脳相関と

Forel-H 野を中心とした脳基底核
群の立体的位置関係に関する研究
(第1編)……………鈴 木 朗 夫

クロールプロマジンおよびレセルピ

ン投与のラッテ視床下部下垂系

神経分泌に及ぼす影響……………藤 井 英 生

'64年4月 第8巻 第2号 1,200円

奇形性神経疾患

水頭症と Arnold-Chiari 奇形……………佐野 圭司・他
頭蓋底陥入症および大孔付辺の骨異

常……………佐野 圭司・他

脳血管性奇形—脳動脈瘤など……………半 田 肇

頭蓋狭小児……………堀 浩

発生異常に基づく神経・皮膚症候群……………川 村 太 郎

先天性脳腫瘍……………鈴 木 二 郎

中枢神経系奇形の成立機序と遺伝……………村 上 氏 広

【原 著】

急性瀰漫性リンパ球髄膜炎および脳

症の病理……………飯塚 礼二・他

Creutzfeld-Jakob 病の1剖検例……………松岡 竜典・他

定位脳手術における頭蓋脳相関と

Forel-H 野を中心とした脳基底核

群の立体的位置関係に関する研究

(第2編)……………鈴 木 朗 夫

'64年7月 第8巻 第3号 1,300円

第6回神経化学懇話会特集号

【巻頭言】

台 弘

【シンポジウム I 神経組織化学の新分野】

神経組織の組織化学的研究における

二、三の問題……………藤田 尚男・他

神経伝達物質の代謝に関する組織化

学的研究……………清 水 信 夫

【シンポジウム II 神経組織化学と行動薬理】

慢性覚醒剤中毒の神経化学的研究……………台 弘

長期アルコール飲用ラットの脳皮質

呼吸におよぼすエタノールおよび

アセトアルデヒドの影響……………石 井 厚

Hydrazine-2HCl により発現する異

なる二つの型の痙攣と脳 GABA

増加作用……………斎藤 章二・他

脳内カテコールアミン代謝と行動変

化……………松岡 正己・他

行動の薬理——とくに方法論的立場

から……………小林 竜男・他

【シンポジウム III 脳の脂質】

脳の脂質の研究……………安 田 守 雄

脳イノシトールリン脂質代謝とイオ

ン輸送の関係……………林 浩平・他

脳細胞顆粒のリン脂質の研究……………塚田 裕三・他

外傷脳および梗塞脳における脂質代

謝および核酸誘導物質の治療面へ

の応用……………荒木 千里・他

糖脂質研究の進歩……………山 川 民 夫

【Special Lectures】

The Metabolism of Lipids and

Lipoprotein in the Central

Nervous System……………J. Folch-Pi

Biochemical Aspects of Schizo-

phrenia ……………Hudson Hoagland

【一般演題】

神経生長促進因子 Nerve Growth-

promoting Factor (NGF) の研

究 (その1) ……………中沢 恒幸・他

その他15論文

【原 著】

位相差顕微鏡による上衣細胞の細胞

学的研究……………阿 部 英 也

ラットの実験的脳腫瘍とその移植腫

瘍の病理……………石田 陽一・他

ネコの脊髄における後根線維の終止…今 井 義 量

'64年11月 第 8 巻 第 4 号 1,000円

視床一構造・機能・臨床一

視床の解剖学……………新 見 嘉兵衛

視床の生理学……………中 浜 博

脳波と視床……………大熊 輝雄・他

視床腫瘍……………佐野 圭司・他

視床の血管性障害……………亀 山 正 邦

視床前核の手術……………半田 肇・他

頭痛の一治療法

—Thalamolaminotomy……………佐野 圭司・他

【原 著】

脳性小児麻痺としてとりあつかわれ

た胎児性水俣病の病理学的研究…武内 忠男・他

急性播種性脳脊髄炎の病理組織学的

研究……………渡 辺 到

新潟市における数種の慢性神経疾患

および神経筋疾患の疫学的臨床的

研究……………大 塚 顕

'65年 3 月 第 9 巻 第 1 号 1,000円

螢光抗体法と Virus 性脳脊髄炎

(第 5 回神経病理懇話会)

日本脳炎の病理発生……………草 野 信 男

狂犬病……………大 谷 杉 士

ポリオ(急性灰白髄炎)……………内 田 信 之

単純性ヘルペス脳炎と螢光抗体法

——新生マウスの実験感染を中

心として——……………山本 達也・他

【Special Lecture】

Organic Mercurial Encephalopathy

—An Experimental Electron

Microscope Study— ……W. Jann Brown et al.

Discussion ……Noritsugu Mukai

【神経病理学的研究】

Gargoylism 脳の電子顕微鏡的研

究……………内村 裕之・他

硬膜外圧迫時の猫脳皮質の電子顕微

鏡的研究—特にステロイドの効果

について……………岡田 耕坪・他

一酸化炭素中毒完全間歇型の 1 剖検

例……………吉田 哲雄・他

非間歇型遷延一酸化炭素中毒症の 1

剖検例……………飯塚 礼二・他

超軟 X 線による人体脳の血管構築

(動脈および静脈)について ……山村 武夫・他

著明な脳血管病変を合併した肝脳疾

患類癥瘕型を疑わせる 1 剖検例……………小田 雅也・他

両側側頭葉の軟化を示した 1 例……………高畑 直彦・他

ミオクロヌステんかん脳内小体の構

造と組織化学……………難 波 益 之

興味ある組織像を呈した Glioma

1 例の報告およびその組織培養所

見……………景山 直樹・他

Meningothelial Meningioma の電顕

像……………石田 陽一・他

Infantile Neuroaxonal Dystrophy

(Seitelberger's Disease) の 1 例…諏訪 紀夫・他

Infantile Subacute Necrotizing

Encephalopathy with Predilection

for the Brain Stem: Report of a

Case ……Hideo Namiki

Heidenhain 病の 1 例について ……辻山 義光・他

多数の壊死巣を伴った亜急性汎脳脊

髄炎の 1 剖検例……………大塚 良作・他

静脈周囲脳炎の形を示した 1 剖検例…猪瀬 正・他

【学会記録】

第 5 回神経病理懇話会記録

【原 著】

入院手術前に急死した脳腫瘍症例の

臨床病理学的研究……………横 山 蒼

'65年 7 月 第 9 巻 第 2 号 1,000円

【特集 I】代謝性神経疾患

代謝異常による神経疾患研究の現況…里 吉 啓二郎

フェニルアラニン, チロジンの代謝

異常症……………塚田 裕三・他

ヒスチジン, トリプトファンおよび

プロリンの代謝異常と神経障害…柿 本 泰 男

その他のアミノ酸代謝異常と中枢神

経障害……………多 田 啓 也

糖質代謝障害による筋疾患……………里吉啓二郎・他

低血糖症と神経障害……………丸 山 博

ビリルビン代謝異常と神経障害……………馬 場 一 雄

Porphyrin 症……………宇尾野公義・他

進行性筋ジストロフィー症骨格筋に
おける myoglobin の異常 ……三好 和夫・他

【特集 II】 ミオパチーの疫学と臨床

日本におけるミオパチーの疫学的綜
括……………勝木 司馬之助
周期性四肢麻痺自験 43 症例の臨床
的分析……………沖中 重雄・他
周期性四肢麻痺の臨床—特にカリウ
ムとの関連……………板 原 克 哉
Thyrotoxic myopathy に関する二、
三の課題……………里 吉 宮二郎
病的骨格筋とミオグロビン……………天児 民和・他
多発性筋炎ならびに近接疾患の診断
および病因について……………吉川 政己・他
多発性筋炎の筋生検所見……………祖父江逸郎・他
横紋筋アレルギーの実験的研究……………上村 紀元・他
多発性筋炎症候群……………黒 岩 義五郎
進行性筋ジストロフィー症に関する
研究……………三好 和夫・他
進行性筋ジストロフィー症に関する
二、三の知見……………杉 田 秀 夫
新潟県におけるミオパチーの疫学お
よびその臨床……………室根 郁男・他
先天性ミオパチーの臨床……………高津 忠夫・他
Dystrophic arthrogryposis syndrome
の同胞例について……………室根 郁男・他
討 論

【古典のページ】

古典のページ発足にあたって……………萬 年 甫
大脳の電気的興奮性について—1870
年—……………Gustav T. Fritsch u. Eduard Hitzig
萬 年 甫訳

’65年9月 第9巻 第3号 1,000円

第7回神経化学懇話会特集号

【巻頭言】……………中 脩 三

【シンポジウム I 脳の構成物質】

脳組織における ribonuclease in-
hibitor の存在とその精製の試み ……間瀬 桂吉・他
牛脳より抽出される生物学的活性ポ
リペプチド……………片岡 喜由・他
牛脳中の酸性ペプチド(I)……………柿本 泰男・他
牛脳中の酸性ペプチド(II)……………金沢 彰・他
チロシン水酸化酵素—脳および交感
神経分布臓器に特異なカテコール

アミン生合成酵素……………永 津 俊 治

【シンポジウム II 神経系病態の生化学】

白鼠および猿による実験的フェニー
ルケトン尿症の研究……………平野 修助・他
実験的 porphyrin 症の神経化学的
研究……………中尾 喜久・他
マウス脳室内注入法より見た痙攣誘
発とイオン—特に Ca イオンとの
関係……………喜多富太郎・他
各種痙攣パターンの局所神経化学的
研究……………融 道男・他
ミオクロヌス小体の超微細構造とミ
オクロヌステんかんに関する臨床
生化学的研究……………難 波 益 之
黒内障性白痴脳の脂質の分析と組織
化学……………猪瀬 正・他
Biochemistry of Multiple Sclerosis……………C.M. Plum

【特別講演】

Phenylketonuria; The Pathogenetic
Problems of a Molecular Disease
Affecting the Nervous System…W. Eugene Knox
Histamine and the Nervous System,
including Original Studies on His-
tamine Formation and its Inhibition…W.G. Clark

【一般演題】

神経疾患に関する免疫化学的研究……………有岡 厳・他
Near-freezing method による脳部位
別アセチルコリン定量法……………高 橋 良
神経終末—新分離法と Na-K ATPase
活性の存在……………黒川 正則・他
脳白質の細胞分画知見……………加藤 尚彦・他
脳のイノシタイドとそれへの ^{32}P 組
入れについて……………林 浩平・他
脳切片におけるアミノ酸の能動輸送
—特に GABA 取り込みの局所的
特徴について—……………中村 陸郎・他
白鼠摘出頸部交感神経節のアミノ酸
代謝の研究……………永田 豊・他
 C^{14} -グルコースを用いたネコ 脳のア
ミノ酸タンパク代謝の研究……………大森文太郎・他
肝臓酵素の活性調節と視床下部 (II)
—特にその神経性機構の解析につ
いて—……………嶋津 孝・他
マウスの部分脳における NAD の確
認と Hydrazine 2HCl の影響……………斎藤 章二・他
脳腫瘍の診断における乳酸脱水素酵

素 Isozyme……………千ヶ崎裕夫・他
 X線照射の脳蛋白質代謝ならびに脳
 組織呼吸におよぼす影響……………原 隆夫・他
 脳の核酸におよぼす tricyano-amino-
 propene の影響……………中 脩三・他
 慢性覚醒剤中毒マウスの脳クレアチ
 ン燐酸, アデニンヌクレオチドの
 変動……………大須賀 恒 夫

【閉会の辞】

第7回神経化学懇話会を終つて……………佐 野 勇

【古典のページ】

老年期の特異な症例について—1911

年—……………Alois Alzheimer

吉岡 愛智郎 訳

Alois Alzheimer について……………吉岡 愛智郎

【原 著】

脳外傷および脳腫脹の生化学的研究

—特にミトコンドリアの機能的変

化を中心に—……………荒木 千里・他

Myopathy の筋電図について……………室根 郁男・他

'65年12月 第 9 巻 第 4 号 1,000円

神経シンポジウム

【開会の辞】……………荒木 正 哉

【シンポジウム I 螢光抗体法と神経組織】

螢光抗体法からみたマウスの実験的

ヘルペス脳炎……………山本 達也・他

実験的狂犬病—新生児マウスにおけ

る発生病理—……………大谷 杉 士

人エリボ蛋白抗原を組織化学に応用

する試み……………山川 民夫・他

【シンポジウム II 代謝性神経疾患】

神経筋疾患の組織化学……………宇尾野 公 義

中枢神経系のカルミン陽性物質の動

態—肝脳疾患における糖原代謝の

問題によせて—……………小田 雅也・他

神経組織におけるグリコーゲン代謝

の組織化学……………武 内 忠 男

実験的高アンモニア血症におけるグ

リア核の態度……………諏訪 紀夫・他

【シンポジウム III 髄鞘形成と二次変性】

組織培養法による神経髄鞘形成およ

び維持時の酵素組織化学的研究……………米 沢 猛

髄鞘形成とグリリア……………中沢 恒幸・他

中枢二次変性の電子顕微鏡的研究—

軸索および髄鞘の変化—……………谷 栄 一

神経線維の変化と酵素の分布……………熊 本 哲 三

【シンポジウム IV 神経組織の細胞内顆粒】

脳内におけるカテコラミンの含有

顆粒……………清水 信 夫

脳 subcellar units の生化学的研究……………植 村 慶 一

興奮伝達の形態学的背景……………内 蘭 耕 二

分離神経終末の研究……………黒 川 正 則

末梢神経における伝達物質顆粒の分

離の試み……………片岡 喜由・他

神経分泌……………佐野 豊・他

神経シンポジウムを終わつて……………白 木 博 次

【原 著】

門脈外科領域における肝性脳症の臨

床的ならびに実験的研究: 第1編

臨床的研究……………豊 島 範 夫

家族例における Wilson 病の臨床と

生化学……………福 田 一 彦

【古典のページ】

いわゆる「Horner 症候群」につい

て……………萬年 甫・他

眼瞼下垂の一型について—1869年—……………J. F. Horner

吉岡 愛智郎 訳

投稿規定

- 1) 原稿は横書き, 平仮名を用い新かなづかい。かならず原稿用紙を用いること。
- 2) 欧文名は原則として原語で書き, 度量衡の単位は mm, cm, cc, dl, mg, g, kg 等と記すこと。
- 3) 原著にはタイプで20行内外の欧文 abstract をつけること。また題名, 氏名, 所属はかならず欧文を要すること。発表は欧文でもよいが, この場合はあらかじめ編集室に連絡のこと。なお, 和文抄録(400 字詰1枚程度)添附のこと。
- 4) 原稿枚数 40 枚, 写真版・図表 10 コ以内とする。超過の場合は実費を請求する。
- 5) 掲載の分には掲載誌および別冊 50 部を贈呈する。
- 6) 採否は編集委員会で決定する。
- 7) 原稿は東京都文京区本郷5丁目 29-11 医学書院「神経研究の進歩」編集室宛送られたい。

あとがき

第4号を年内に発刊でき, 編集室もほつと一安心している。学会やシンポジウムの記録が, 約1年たたねばプリントにならない, という現況は, なんとか改めねばならないと思うが, 諸般の事情でいたしかたない場合もある。先号の巻頭言(阪市大中脩三教授)に, 「由来, 学会記録というものは忘れた頃現われるようで, もうこの記録がでる頃は全く反対の説がでたり, 本人自身もこれはしまったと思う人があるかもしれない。しかし歴史というものは記録であり, 現在の結論はその結論によつて生れたものであるから, この記録には永遠の価値がある」という一文があつた。至言であろう。だが, いざ1年遅れの原稿の校正をお頼みすると, 「あの頃まだわからなかつたことがずいぶん明らかになっている。学問の進歩の早さに思いつて, かねて心強く感ずる」などという耳の痛いお言葉もちようだいしたりするのである。